

異文化との出会いを楽しむ

高 靖

要旨 本稿では筆者が日本で生活した日々の中での経験を通して肌で感じた日本人の生活習慣や行動を紹介して、日本の文化と出会ったことから、異文化との出会いの楽しさや、その理解の大切さを述べる。

キーワード：異文化、トイレ、化粧、飲酒、女性

1. はじめに

日本が中国文化から受けた影響はきわめて大きいにもかかわらず、両文化の相違点はたくさんあるので、日本人の言語文化、表現心理を理解せずに接してしまって失礼に当たることも多い。日本で長く生活し、中日両国の文化をある程度理解している私は、日本人の生活習慣や言語の表現形式などをより深く理解できていると思う。日中両国文化や習慣などをよく理解することは両国交流の基本でもある、日本生活の中での異文化体験と中国文化との比較、考察していく。

2 自らの異文化体験

2.1 「トイレ文化」

中国と日本の文化を比較するにあたって幅広い分野の中で、私はまず「トイレ文化」に着目してみた。

90年代初めて日本に来たときに私が見た日本のトイレは中国の高級ホテルで見られるような清潔で、綺麗なものだった。しかも、空港、図書館、学校、駅ホームなどごく普通の家や公園などの公衆トイレに至るまでよい香りがして、清潔なのである。特に、気に入ったのは「トイレ用擬音装置」の設置である。トイレで用便時に音が発生することが恥ずかしくて、その音を隠すために、何度も（便器の）洗浄水を流したことがある。この擬音装置がついて自動的に水流音が流れる便器は、私だけでなく、女性なら誰でもうれしく、そして大変便利なものといえるに違いない。一方、中国のトイレは日本ほど綺麗に整えていない。それに、中国の田舎では「トイレには廃紙を使う」という昔ながらの考え方から、それはちり箱に捨てるという風習は今でも残っている。それに対し、日本のトイレには使った廃紙を

捨てるためのちり箱は置かれていない。日本のトイレトベーパーはとても薄く、水溶性であるから、すべて下水道に流すことができる。そのため、悪臭に悩むことなくすむのだ。そのことから、日本人は繊細で、細かいところまで気遣って、実用性を好むのだということに身をもって実感したのである。

よって、日本のトイレ文化は、日本人の特徴を如実に表していると言えるのではないだろうか。

2.2 「女性の金の使い方」

まず、日本の女性について述べる。日本の女性のお金の使い方には、段階があるように思われる。結婚前と結婚後、就職前と就職後ではかなり違うようだ。結婚前の学生時代は、親の仕送りによって生活をしているので、最低水準の生活しか維持できない場合が多い。それなのに、アルバイトで稼いだお金の多くは、旅行などの遊びに使ってしまう。就職してからは、日本の独身女性の多くは自分の稼ぎは自分のものとばかりに、夏はハワイで泳ぎ、冬はヨーロッパでスキーをしたりしている。日本の女性は、結婚すれば育児などで自分の時間が十分取れないことを自覚しているのか、独身のときには、遊びに使うお金を惜しまないようである。

それに対して、中国の大学生は、在学中は親のすねをかじるが、卒業して結婚するまで、自分の稼いだ給料のほとんどを親に渡す場合が多い。その代わりに家で生活するのである。また、中国の内陸部出身者が家から通える場所に適当な仕事がない時には、もっぱら中国沿岸部に出稼ぎに行く。その場合でも、自分の生活費を切り詰め、親に仕送りをする場合がほとんどである。

そして、結婚すれば中国も日本でも、女性は儉約して生活する。中国と日本女性の結婚後の違いは、日本で共稼ぎの場合、生活費は勿論、大きな買い物（家や車など）も夫と妻の稼ぎで共有するが、中国の場合は、生活費は共有しても、大きな買い物の場

所属？

受付日：2013年3月31日

採択日：2013年4月20日

合は、夫の稼ぎで決済する場合が多いようである。 ている。

2.3 「化粧美人」

一般的に言えば、日本の女性たちは高校時代から化粧をし始める。それは自らきれいになって、自信をつけて他者に勝つためだけではなく、マナーであり、他人に対する敬意を表すためにするのだ。一方、中国の若い女の子は、10年前までは、化粧した美しさより、生まれつきの美しさを一番だと考え、化粧するのは自分の年をカバーするだけのものだと思っていたのであるが、近年は、中国の経済の発展に伴い、年齢のカバーのため化粧するだけではなく、鼻の整形や二重まぶた整形などの美容整形も流行してきた。もともと中国人は、一重まぶたが圧倒的に多数であるが、今や中国でも韓国式美容整形が広まり、今では、中国の女性の化粧は日本、韓国の女性よりも濃いとも言われている。そして、中国OLや女子学生の中には食費より化粧品に使うお金の方が多いという人も少なくないようだ。ところで、化粧した顔もその人間を表す一種の「表情」だと言えないだろうか。日本人は主張や感情の淡白さが表れ、中国人は熱い気質に溢れた奔放的な個性が強調されているように感じる。化粧方法一つに中日両国の違いを現われ、その顔は各自の文化の特徴を表しているようだ。

2.4 「飲酒文化」

ここでは飲食文化について、主にお酒を介しての人のつきあい方について述べよう。中国では「宴はお酒がないと、宴とは言えない」という言葉があるが、その言葉道理、食事をする際は、必ずお酒がある。そして、「相手に飲ませる」という習慣があり、他人を無視し、自分だけがお酒を飲むことは失礼なのである。それに、拳打ち遊びをして、ムードも盛り上げる。そのようにお酒を介してお互いに楽しんでいる。中国で「干杯(かんぱい)」と言うと、お酒は全部飲み干さなくてはいけない。一方、日本の「乾杯(かんぱい)」は「みんなで一緒に飲もう」の意味で、お酒を全部飲み干さなくてもいい。また、飲酒時には、中国では「おごる」ことが大事とされている。よく一緒にお酒を飲みに行く友達は、交替でお金を払い、それは中国では仲の良さを表す仕方である。だが、日本では理由がないとおごることもご馳走を受けることもしないのである。ただ、自分に何かめでたいことやお礼をすることがあるような理由があって、相手が喜んでその誘いを受けるということはよくあることで、そうでないと、他人に義理を欠けることになると思われるからである。普段、日本人同士一緒にお酒を飲みに行くときは、大体割り勘をして、自分の分だけ払う。そのようなやり方は、日本人の他人に義理を欠きたくないとともに他人に迷惑をかけたくないという考え方を現し

3 異文化との出会いを楽しむ

日本社会は規則に溢れる社会とよく言われており、生活から仕事にいたるまで、日本人は毎日規則を守りながら、生活を営む。異文化に身を置いた時は、外国人の私たちもまずは「郷に入っては郷に従う」べきである。そして、まったく自分と違う価値観や常識を持つ人と付き合うことによって、自分の常識や文化に対する理解などを広げていくのは楽しいことなのである。

4 おわりに

以上、「トイレ文化」、「女性の金の使い方」、「化粧美人」、「飲酒文化」という小見出しをつけながら、中日の文化の違いについて述べた。まず、異文化の「異」を認めてから、お互いの真の理解が生まれてくるはずである。自分の文化を大切にすると同時に、他者の文化を尊重することはグローバルの時代には必要な姿勢だと思う。

参考文献

- [1] 小坂貴志『異文化コミュニケーションのA to Z』研究社 2007年
- [2] 『日本人の意識2008』NHK 研究所 2008年